



JEITA/ECセンターの将来VISION

ECセンターでは平成28年度JEITA重点事業CPS/IoT社会実装の推進の(4)「他業界とのEDI標準化の推進」を視野に、将来に向けたJEITA/ECセンターの活動の方向性をECALGAセミナー 2016(5月27日)で発表致しました。内容の一部ですが抜粋して報告致します。

コンセプト 将来VISION2020

JEITA/ECセンターでは2014年に将来VISION検討TFを立ち上げCPS/IoT社会実装へと向かう中、2020年を視野にECセンターの活動の方向性を検討してまいりました。

現実社会のデジタル化の波の中、導き出したコンセプトが「ひろげる」「つなげる」「みえる」「みいだす」「つどう」「うみだす」です。

今後、このコンセプトに従い下記の意志を持って事業を推進してまいります。

- ①自動車、医療機器、ロボット等、業界との取引を「ひろげ」、積極的に関わっていきます。
- ②IoT製品や製造機器等からの稼働データ連携などで、

企業間の活動データを「つなげ」ます。

- ③つなげてデータを集め、製造状況や利用状況を「みえる」化し、さらに将来とるべき手を「みいだし」ます。
- ④JEITA/ECセンターは、技術/情報/ヒトが「つどう」場であり新しい価値を「みいだし」「うみだす」場所であり続けます。

JEITA/ECセンターの新しい取り組み

JEITA/ECセンターへの期待として個社のみではできないことへの取り組み、JEITA会員企業のためになる取り組み、JEITA業界の継続的発展につながることへの取り組みがあります。「将来VISION」の取り組みテーマの中から、将来VISION検討TFメンバー会社の関心が高い案件を抽出しましたが、特に企業間の新たな情報共有基盤の確立に向け「トレーサビリティ」「つながる工場」について深掘り致しました。

企業間新情報共有基盤の確立

新しいトレーサビリティへの要求、つながる工場への

【将来VISION2020】



要求などに応える企業間新情報共有基盤確立に向けたITの標準化の取り組みが必要です。

トレーサビリティのためのIT

各社や製品が提出するトレーサビリティ情報の蓄積されている位置、蓄積内容、公開範囲の制御(利用者認証)などのITが必要です。

つながる工場のためのIT

外部製造委託依頼元データ(設計や製造計画などの情報)や、依頼先データ(生産状況情報)の置き場と公開制御ができるITが必要です。

状態リアルタイム把握のためのIT

製品の製造過程状況に加えて、出荷、物流、検収など、を含めた各プロセス情報と動的情報を把握するためのITが必要です。

将来VISION2020で実現されること

現実社会のデジタル化(CPSやIoT)により、SCM及びECM関連の業務に新たなインパクトが生じます。製品の電子化が進み対応業界が拡大し、ITで、企業内の業務

プロセスが改革され、新サービスも誕生します。

将来VISION「戦略的な将来像」に向かって

1社で、できないことがあります。JEITA/ECセンターとしてみんなが“つながる”次世代標準に取り組みます。業際とグローバル連携を推進強化するために本年度より「業際・国際EDIタスクフォース(仮称)」を設置します。日本自動車工業会(JAMA)などの異業種、EDIFICE(欧州)などの国際標準化団体をはじめ国内外の他団体・他業種との連携をより強めます。

2020年には医療、教育、農業、都市、エネルギーもITの進化(IoT)を前提とした変遷(パラダイムシフト)により「社会システム」や「都市」そのものが再構築されます。「もの」から「こと」への変遷の中では間違いなくITが中心的な役割を担います。

EDI標準化のトップを走るJEITA/ECセンターに与えられた負託に応えるべく事業を推進致します。関係する多くの皆様のご協力を賜りたくお願い致します。

【企業間新情報共有基盤の確立】

